

永澤美保（同調的共生）、中野和彦（環境分析学）、久世明香（動物臨床行動学）、
今野晃嗣（動物社会認知科学）、菊水健史（集団内分泌）

研究の背景

- イヌは「におい嗅ぎ」が大好きです。イヌにとって、他個体の「におい」は社会関係構築の重要な手掛かりになります。
- しかし、イヌほど嗅覚が優れていない私たちヒトは、イヌにとっての「におい」の重要性を軽視しがちです。
- 2023・24年度ジェネプロ研究では、イヌの嗅覚をテーマにしています。

2023年度：イヌがヒトのストレス臭を弁別し、般化できるか…①

2024年度：におい嗅ぎを通して、イヌにとって好ましい散歩道を考える…②

- 今年度は、今までのジェネプロテーマを発展させて、イヌの嗅覚やにおいの重要性について理解することを目的とします。



① ストレスのかかったヒトのにおいを嗅ぎ分けることができました。さらに、訓練なしでも嗅ぎ分けることができました。

アプローチ

一般家庭犬を対象に、下記のようなイヌの嗅覚に関する行動実験を行います。イヌの嗅覚に関する資料を読んだり、研究室の他の行動実験の手伝いを通して、実験方法を考えて実施します。

- イヌはどんなにおいを好むのか
- イヌは他個体の情報をにおいから得ているのか
- においはイヌの行動に影響するのか etc…

※ ジェネプロ採用後に話し合っ具体的実験を決めます。



② イヌがにおい嗅ぎをする場所を地図上に記録して、その特徴を調べています。また、においを嗅ぎながら散歩することでイヌのストレスが低下するか、実験中です。

期待される結果

自身の学びや研究方法を身につけると同時に、**イヌにとっての「におい」の重要性の理解を促進**することで、イヌの福祉に貢献できます。

- イヌにとっての社会シグナルとしてのにおいの重要性がわかると、イヌに積極的ににおい嗅ぎをさせるなど、社会的欲求を満たすことにつながります。
- 本テーマに参加する学生は、調査方法やデータの取り扱い、プレゼンテーションの方法などを身につけることができます。イヌとの暮らしにおける環境改善への手がかりが得られます。

募集方法

- 募集人数：若干名（説明会に参加してください。希望者が多い場合は面接で選抜。）
- 下記の条件にあてはまる方：
 - 介在動物学研究室のゼミに参加し、積極的に学ぶ意欲のある方。ゼミで研究の進捗報告などを定期的に行ってもらいます。ゼミは週3回、朝8時からです。
 - オープンキャンパスなどでの広報活動に積極的に協力できる方。
 - 忍耐強く誠実な方。
 - 土日でも実験をすることがあります。時間と心にゆとりのある方。
- 連絡先：お問い合わせはメールをお願いします。 nagasawa@azabu-u.ac.jp